

第3回HUL (HISTORIC URBAN LANDSCAPE、歴史的都市環境・景観) 連続シンポジウム ～京都の現状から歴史的都市環境のいまを考える～

日時：2021年4月18日(日) 14:00～16:00

会場：ZOOMによるオンライン

参加費：無料(※参加を申し込まれた方には当日までに配信URLをお知らせします。)

主催・問合せ・申込み：NPO法人全国町並み保存連盟(前回と申込み先が違います)

E-mail：matinami@pop02.odn.ne.jp

氏名、所属、役職、メールアドレス、電話番号を明記の上、上記アドレスまでE-mailにてお申込みください。電話：03-6240-0321(不在の場合は留守電にメッセージを残してください。折り返します)

締切：2021年4月16日(金) 17:00

.....

【プログラム】

▼問題提起とこれまでの報告

中村泰典(NPO法人倉敷町家トラスト代表理事・NPO法人全国町並み保存連盟理事常任理事)

▼京都

丹羽結花(NPO法人京町家再生研究会理事・NPO法人全国町並み保存連盟理事)

▼質疑応答

進行：福川裕一(千葉大学名誉教授・NPO法人全国町並み保存連盟理事長)

第1回は、HUL勧告に至る歴史的経緯と世界の状況、HULの概要などを福川裕一氏の基調講演から学んだ。(スライドは連盟HPからダウンロードできる：<https://www.machinami.org>)

第2回は、HULの勧告から10年経過した日本で、福岡県八女市、埼玉県川越市、岡山県倉敷市を事例にあげ、保全のしくみや課題について議論し、歴史的都市環境(HUL)の中での重伝建地区制度について問題意識や課題を共有した。1～2回は、HUL連続シンポジウム実行委員会の主催で報告書を作成中である。(連盟HPブログで関連記事を更新中)

第3回は、全国町並み保存連盟主催で、日本で最も総合的な歴史的都市環境(HUL)の制度を持つと考えられている京都市を事例にあげる。世界中から観光客を集める古都京都は、これまでもたびたび開発圧力にさらされてきたが、2017年には全国に先駆けて「京都市京町家の保全及び継承に関する条例」を成立させた。これまでの制度を学び、現在の状況と課題について地域まちづくり活動の視点から報告いただき、参加者で状況を共有したい。これは、11月に開催する第44回全国町並みゼミ奈良大会の分科会につながっていくテーマである。

【報告者】

*丹羽結花(NPO法人京町家再生研究会理事・NPO法人全国町並み保存連盟理事)

専門は地域社会学、特に地域コミュニティ活動に関する社会調査やフィールドワーク。